

2024 Jリーグ ルヴァンカップ 1回戦
3/13 (水) 19:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

today's guest

大宮アルディージャ

ルヴァン杯2024日程

岐阜が勝ち上がったときは

● 2回戦

4/17(水) vs名古屋

※原則、下位カテゴリー側のホームで行うことになっているので、長良川で開催の可能性が高いです

さらに勝ち進んだときは

● 3回戦

5/22(水) vs (横浜FCvs岡山の勝者)

※原則、下位カテゴリー側のホームで行うことになっているので、長良川で開催の可能性が高いです

さらにさらに勝ち進んだときは

● プレーオフラウンド

6/5(水) と6/9(日)

※ホーム&アウェー。岐阜は6/8(土)に沼津とのホーム戦が組まれているためここまで勝ち進むとリーグ日程の変更が発生すると思われます。

次回HomeGame

第6節 vs.いわてグルージャ盛岡

3/24(日) 15:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 **ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日ここから
串かつで一杯

煮込み **珍道中**
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です

<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約10分

★
アミカ

ドミ
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全7試合 (J2: 6試合, J3: 1試合) 岐阜1勝 / 大宮5勝 / 1分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 0勝1分2敗		
直近の対戦結果	2024/03/02 大宮 1-0 岐阜 J3-2節@NACK		
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/03/10 J3-3節@長良川 岐阜 4-3 讃岐 2024/03/02 J3-2節@NACK 大宮 1-0 岐阜 2024/02/24 J3-1節@長良川 岐阜 4-1 福島	大宮 2024/03/02 J3-2節@NACK 大宮 1-0 岐阜 2024/02/24 J3-1節@NACK 大宮 4-1 八戸 2023/11/12 J2-42節@NACK 大宮 0-2 東京V

●全38節の2024年J3リーグで開幕2試合を1勝1敗としたFC岐阜。3/10(日)第3節・ホーム讃岐戦では、試合開始直後に#11藤岡浩介、#16西谷亮が立て続けにゴール。前半5分足らずで2得点を挙げるが、その後は2失点し、同点で前半を折り返す。後半には#4甲斐健太郎の得点で勝ち越すが、再び追いつかれる。しかし、交替で投入された#24栗飯原尚平が、その直後に値千金の決勝ゴール。激しく点を奪い合う試合を制して、岐阜が4-3で勝利した。この試合の結果、FC岐阜の現在の順位は6位。まだシーズンが始まったばかりなので焦る必要はないが、このペースで勝点を積み上げ続けなければJ3優勝はできない。今後も目の前の1試合を全力で戦って、勝利を掴み取って欲しい。

さて、リーグ戦を一旦離れて、今日の試合はJリーグカップだ。J開幕前年の1992年から開催され、その第1回大会から冠スポンサーがつき、「Jリーグヤマザキナビスコカップ(略称:ナビスコ杯)」と呼称。2016年にスポンサー企業の「ナビスコ」ブランドとの契約終了&社名変更に伴い「JリーグYBCルヴァンカップ(略称:ルヴァン杯)」と変更されている。これまで、1995年に日程の関係で開催が見送られたことを除けば、毎年開催されており、今年は第32回大会。ただし、参加資格やレギュレーションは何度も変更されている。特に参加資格は「リーグカップ」でありながら、1999年に創設されたJ2クラブ全体に参加資格があったのは1999年~2001年のみ(なお、それ以前にはJ準会員クラブが参加した大会もある)。J1クラブだけが参加(2018年からはJ2に降格した2クラブも参加)する大会方式が長く続いたが、今年から、全Jリーグ60クラブが参加する方式に改められた。レギュレーションも、今年ACLに出場する川崎・横浜F・甲府を除く57クラブを10グループに分けて「1stラウンド(トーナメント戦)」を行い、勝ち残った10クラブが「プレーオフラウンド(H&A)戦」に進出。勝ち残った5クラブと先述の3クラブによる「プライムラウンド」でリーグカップを争う方式となっている。

初めてのJリーグカップ参加となるFC岐阜。第1回戦の対戦相手は、奇しくも先日3/2(土)に対戦したばかりの大宮アルディージャだ。昨季J2で21位となりJ3に初めて降格。1年でJ2に復帰すべく、岡山などを指揮した長澤徹氏を監督に招聘して体制を刷新、現在はリーグ戦2勝・5得点1失点の成績だ。つまり、大宮は岐阜との対戦後に公式戦をしていない。これは、J3の東北3クラブ(八戸・岩手・福島)を第3節はホーム開催とするため、その開催日が(天皇杯の各県予選が予定されている)4/20(土)・4/21(日)に設定されたからだ(大宮は4/21(日)に福島と対戦)。したがって、岐阜は中2日での公式戦だが、大宮は中10日。地の利は岐阜にあるとはいえ、コンディション面では圧倒的に不利だ。ただし、まだ2試合しか実戦経験がなくチーム戦術の浸透と言う意味では、岐阜の方に分があるかもしれない。また、ベストメンバー規程が事実上撤廃されている現在では、これまでの天皇杯と併せて、今年からのルヴァン杯の「重み」をどう考えるのかは、特にJ2&J3クラブにとって難しい問題となるだろう(なお、3/6(水)に開催された第1回戦では、9試合中5試合でJ3クラブが勝利)。今日の試合の勝者は、4/17(水)にホームでJ1名古屋と対戦するが、この第2回戦をどう考えるかも、今日の試合の行方を左右するだろう。そして、今日の試合の後はJ3リーグ戦に戻り、中2日で3/16(土)F大阪、中2日で3/20(水)今治とアウェイ連戦の後、中3日で3/24(日)ホーム盛岡戦まで、過密日程の連戦が続く。これは大宮も同様なので、まずは両監督が起用したスタメン選手が誰なのかに注目したい。

大宮との対戦成績は、岐阜の1勝1分5敗・3得点14失点。ただし2019年以降の対戦は、先述の3/2(土)第2節アウェイ戦(0-1)のみ。その対戦では前半ATに決勝点を許してしまったものの、決定機もあった惜しい試合だった。先述のように不利なチーム状態だが、この試合でリベンジを果たしたいところだ。

3月に開催される平日・水曜日のナイター。選手たちにも僕らサポーターにも厳しい環境での試合になるだろう。だけど、それでも岐阜の選手たちの勝利を信じたい。最後まで拍手と声援を送り、選手たちの背中を後押ししよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第3節】 岐阜 4-3 讃岐

●花冷えのする強い風の吹く中、キックオフされたゲームは、なんと開始1分も経たぬうちに（記録上は1分）藤岡浩介のゴールで幕を開けた。そして興奮も冷めやらぬうちに、西谷亮のプロ初ゴールで追加点。まさに讃岐が試合に入る前に優位に試合を運ぶ展開に。

しかしながらこれでスナリいかなのがサッカーの怖さ。讃岐の大野耀平に2点を決められ、前半のうちに追いつかれてしまった。更にGK茂木秀が脳震盪疑いで交代を余儀なくされ、上田智輝が急遽出場する事態に。

後半も一進一退の攻防に。甲斐健太郎のヘディングで勝ち越すも、再び追いつかれて3-3に。難しいゲームになったが、最後は途中出場の栗飯原尚平が決めて4-3に。粘る讃岐を振り切った勝利。まさに辛勝といえるゲーム。

4点取れたことは良かったが、守備を始めいろんな面で課題の残る内容。すぐに水曜はルヴァン杯大宮戦。先日のリーグ戦の雪辱を果たしたい。

（岐阜の誇り）

●少し前までの暖冬が嘘だったかのような冷え込み、そして風。これは選手たちのプレーにも影響するだろうな……と思っていたら、前半1分に#11藤岡浩介が先制点を決めたとと思うと、スタメン起用された#16西谷亮が前半4分に祝・J初ゴール。あれれ、そんなに讃岐と実力差あったっけ、今節はこのままのペースかな……と思いましたが、やっぱり現実は甘くなかった。というか、一般的なサッカー格言は『2-0は危険なスコア』ですものね、『3点差』じゃなくて（苦笑）。前半20分にセットプレーから失点。確かにオフサイドっぽかったけれど、ここはJ3ですから（溜息）。そしてバタバタしてる内に自分たちのミスでPKを献上してしまい、前半20分に2失点目。さらに1失点目の交錯プレーで負傷したGK#1茂木秀が脳震盪の疑いにより途中交代。そのマズい流れを何とか同点で押しとどめたのは、交替で入ったGK#31上田智輝のビッグセーブ。後半6分にはCKの流れから、#4甲斐健太郎の勝ち越しヘッドで再びリードを奪うけれど、後半26分に再び追いつかれる。このまま引き分けてしまうのか……と僕らの心に立ち込めた暗雲を振り払ったのは、後半36分の#24栗飯原尚平の左足一閃！この1点差を何とか守り切って、4-3。当初の予想が外れて、激しい点の奪い合いを制した岐阜が勝利。いやー、やっぱり攻撃力を増やそうとすると守備力が減るのは仕方ないのかしら。特に両SBが上がった裏のスペースを完全に狙われていたと思う。それと、まだ選手間の連携が上手くとれていなくて、前節と同様にパスミス等でボールを奪われてカウンターを浴びる場面が何度か見られた。この辺りは、しっかりと修正して欲しい。とはいえ、課題が見えた中でも勝ち切ることができたのは、本当に良かった。こういった勝負強さを、今シーズン継続することができたらなあと思う。

（ささたく）

●う～ん……、兎にも角にも「勝ってよかった。」コレに尽きる。こういう泥試合でも長良川では勝ち点3を手中に納める。ものすごく大事。しかも、4得点。本来なら「言うことなし。」で締めくくれるハズなんだけどなあ。とりあえず、婉曲的に表現すると「ブサイクな試合だったね。」かな。

スローインを挟んだから『電光石火』とも言い難いけど、またしても、石田→コースケのホットライン炸裂。オマケに初スタメンの西谷が初ゴール。素晴らしい出足が素晴らしい流れを呼び込んで、2点取った後の7~8分辺りで見せた左サイドから真ん中でのボール回しなんかは、ただ、ただ、見惚れるだけだったんだけどねえ。コースケのスルーにユーヤが一瞬、反応が遅れて追加点ならず。アレ、きちんとコンタクト出来たら、たぶん、3点目が決まっていた。その時は「ユーヤだし。ソレに前半で3-0はキケン（以下略）。」とか思ってたんだがなあ。ソレがダメだったのか。イージーな、実にイー

ジーなミスからの失点。ムリに繋ぐ必要もなく、慌てる必要はさらになく。ナゼ、あんなったのかは、選手、スタッフみんなでも反省していただきたい。

逆に、焦ることなく淡々と自分達のやり方を貫いた讃岐の選手を称えるべきか。最前線の2人、あと、13番と66番とかがメンドクサイ相手だったな、と。残念ながら、2匹目のドジョウはいなかった>讃岐のPK。

気分の浮き沈みが激しくて、実にスリリングな試合だった。それでも、勝ち勝ち。プリンスが決めて、ニューフェイスが決めて、カムバック組が勝ち越し弾（カイケンのは追いつかれちゃったけど）を決めてくれて。終わってみれば、ホーム2戦連続4得点。明らかに昨季までとは違う。ソレがイイ。まあ、その分、両サイド裏のスペースを突かれて複数失点……の可能性も少なくないけど。だが、ソレでもイイ。要は、1点でも多く取ればいいんです！

あと、気になるのはモギシュー。何事もないコトを祈ってる。ただ、3日後にはルヴァン杯が迫っている。ターンオーバーを考えたら、トモキが実戦経験を積めたんだ、とポジティブに考えたい。たぶん、水曜のスタメンはトモキかな？頼んだよ！

（ぐん）

●シュート数は岐阜9：讃岐10。スコアは4-3。ゴールシーンも多く観れたし、エンタメとしては上出来……なのかもしれないけど、なんか遊園地で「絶叫させることだけを考えて設計した絶叫マシン」に90分乗せられた気分でもある。秒殺（サッカーの世界では「開始1分以内のゴール」という意味で使われる……ことがある）「された」ことはあったかもしれないけど、「した」ことってあったかなあ……。3分後だかにもう1点。アニメ『ガンダム』での敵将、ギレン・ザビのセリフ「ふふふふ……圧倒的じゃないか我が軍は」がアタマの中に出てきたとしても、しょうがないじゃないか。たとえ、そのセリフがその後、『大逆襲』を喰らうフラグの意味で使われているとしても、だ。

讃岐側としたら、地域のソウルフードで形容すれば「ごめんなさい！開店までにごどんが茹で上がっていませんでした！」ということになるか。その時間に岐阜は2点を奪ったけれど、茹で上がってしまえば「コシの強い前プレス」で口の中で勢いよく跳ねる『讃岐うどん』の時間。いや、ホントにどうなることかと。

GKモギシューの負傷（脳震盪疑い、かな）で急遽投入の上田だけど、彼も昨季はJ2藤枝で16試合出場。バタバタすることなく、ビッグセーブも披露してくれた。

試合は、この日も「行った行った」の石田が目立つ右サイドという感じの展開の中で「左サイドだって仕掛けませ〜」と栗飯原→北→栗飯原で仕留めて決勝点。なんとか勝った……という、実力的には両チームにそれほどの差はなかったんじゃないか、と。勝敗のポイントは、サブメンバーの火力の差、そして讃岐が「試合の入りのマネジメントに失敗した」こと。これに尽きる。

岐阜側には守備に課題が多くみえた。石田の行った行ったの裏をどうケアするか。残念ながら、この日の新垣はうまく対処していたとは言えない。ボランチ起用で初スタメンの西谷も守備で機能していたとはいいい難い。さらには、相手が3トップにして左FWがワイドに位置して石田の上がりに蓋をしたらどうするか。まあ、そうなった時の河波の右MF途中投入なんだろうけど。決勝点のシーン、右ワイドに河波が張って、石田はペナルティ・サークル付近（栗飯原のすぐ後ろ）にいたもんな（笑）。昔むかしの西濃運輸・右SB石崎（現在は岐阜の強化担当スタッフ）のプレーを思い出してしまったじゃないか（笑）。これからも愉しませてくれそうだ。

石田の行った行ったを活かさない手はない。そこのマネージをどうするか、だ。（吉田铸造）